

東アジア政治研究【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

この授業では、主に中国の事例を通じて東アジア政治の現状を観察し、この地域の政治構造ならびに国家と社会の関係について理解することを目的とする。授業では、毎週、授業予計画のテーマに関する論文を1~2本読んで討論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

中国を中心とする東アジア政治について、専門性の高い文献を理解し、分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分の研究テーマと関連づけて考え、議論することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

講義の課題や議論において、先行研究を踏まえて自分の考えをまとめ、表現することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究課題や履修状況に応じて設定し、初回の授業で通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年(○)

国分良成編著『中国文化大革命再論』慶應義塾大学出版会、2003年(○)

下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

鈴木隆『中国共産党の支配と権力 - 党と新興の社会経済エリート』慶應義塾大学出版会、2012年

若林正文『台湾の政治 - 中華民国台湾化の戦後史』東京大学出版会、2008年(○)

Steve Tsang, A Modern History of Hong Kong, Hong Kong University Press 2004 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インタロダクション

第2回 党と国家の関係I(中国・共産党)

第3回 党と国家の関係II(台湾・国民党)

第4回 中国の中央地方関係

第5回 香港、一国二制度

第6回 中台関係

第7回 台湾政治

第8回 歴史認識と統治の正統性

第9回 大躍進

第10回 文化大革命

第11回 改革開放(経済政策と政治)

第12回 改革開放(華南の状況)

第13回 経済大国化と安全保障

第14回 中国の社会主義

第15回 レポートの講評と授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標をどの程度達しているかに照らして、授業での発言・発表50%、課題提出物50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書を活用して、テキスト以外の専門書にも積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済研究【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○						

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際関係研究【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

東アジア国際関係を、東アジア伝統地域秩序の基礎としての朝貢体制とその原理・規範から検討する。とりわけ明・清代の朝貢体制の多重性、儒教的原理・規範を考察する。

DPに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

朝貢体制の制度、理念、慣行に関する史料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり論文を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

指定せず、授業中に関連史料を取り上げて解説する。また先行研究や関連文献を紹介し、受講生の解説と報告を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の概要、目標

第2~14回 関連文献の報告、討論、補足説明

必要な場合、受講生の関心分野の報告の機会を設ける。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後の学習に基づいた報告と討論 (70%) と期末のレポート (30%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

関連文献の予習と報告・討論の事前準備。事後、関連文献や参考文献の自主学習、論文修正を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

東アジア伝統地域秩序に強い関心をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

過去の伝統を知らざれば、現在を知らず、未来を展望することもできない。

キーワード /Keywords

東南アジア政治研究 【昼】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国の政治・社会（教育を含む）・エスニシティに関する文献をまず読み、その後に東南アジア諸国と日本との関係に関する文献を輪読して、報告と質疑を行う。それによって、【東南アジア諸国の政治や社会などの学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につけるとともに、東南アジア諸国と日本との関係の今後を自ら考え、行動できるような人材の育成】を目指す。

具体的なテーマは受講生の関心や知識によって決めるが、今年度は特に東南アジア諸国における日本占領に焦点を当てて、日本占領がどのように生徒・児童に教えられ、どのように国民の記憶となり、国民統合に位置づけられているのかを、シンガポールの学校で使用されている歴史教科書を受講生と読んで議論し、さらに、教育とナショナリズム、国民国家建設についても議論してみたい。

DPに基づく3つの到達目標

- 【高度な専門知識・技能】近現代東南アジアや国際関係の史資料を読むことができる。
- 【高い問題解決と表現力】自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】受け身の学習ではなく進んで調べたり、図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定するが、候補としては以下3つを考えている：

- (1)From Colonies to Independent Nations: Selected Studies in Southeast Asian History
シンガポールの中高等教育機関で使用されている歴史の最新の教科書。コピーして配布する。
- (2)Michael Leifer, Asian Nationalism, Routledge, 2000.
- (3)Kevin Blackburn and Kark Hack, War Memory and the Making of Modern Malaysia and Singapore, NUS Press, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)について
 - 後藤乾一『近代日本と東南アジア：南進の「衝撃」と「遺産」』岩波書店、2010年
 - 倉沢愛子他編集委員『岩波講座 アジア・太平洋戦争』岩波書店、2005年
 - 倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』早稲田大学出版会、1997年
- (2)(3)について
 - 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年
 - 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2018年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回～4回 From Colonies to Independent Nationsを3回に分けて輪読、議論する
- 第5回～8回 Asian Nationalism およびWar Memoryのなかから教員が指示した箇所を輪読、議論する
- 第9回～11回 日本占領期の教育について、教員が指示したテーマを報告する
- 第12回～13回 各受講生はこれまで議論したことのなかから各自のテーマを見つけて報告し、議論する
- 第14回 全体討論
- 第15回 全体討論、課題レポートの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論の内容 70%、レポート30%
なお、出席状況が悪い場合は減点をするところがあるので注意して欲しい。
これらによって、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、事前に参考文献や資料を収集して熟読すること。事後にレポートを科すことがある。

東南アジア政治研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、日本占領、国民国家建設、教育、ナショナリズム

東南アジア歴史文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国が抱える現代的課題を分析する上での歴史的・文化的アプローチについて考える。
あわせて、オリエンタリズム的認識の克服方法について学ぶ。
但し、受講者の研究内容を踏まえて変更する場合もある。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回～第14回：分担を決めた上で、各人に報告してもらう。
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容及び議論への参加度 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

その都度、指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア社会圏演習 【昼】

担当者名 下野 寿子 他 各研究指導教員
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

中国・台湾・香港を中心に、東アジア社会圏の政治、経済、文化を理論的・実証的に研究する。学位請求論文の作成を視野に入れた講読や研究発表などを行う。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマによって決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマによって指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
 - 2回 研究テーマに関する確認など
 - 3回 文献講読と議論 (1)
 - 4回 文献講読と議論 (2)
 - 5回 研究発表
 - 6回 文献講読と議論 (3)
 - 7回 文献講読と議論 (4)
 - 8回 文献講読と議論 (5)
 - 9回 文献講読と議論 (6)
 - 10回 文献講読と議論 (7)
 - 11回 文献講読と議論 (8)
 - 12回 文献講読と議論 (9)
 - 13回 文献講読と議論 (10)
 - 14回 研究発表
 - 15回 まとめ
- 最初の演習において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と議論の内容によって評価する (100%) 。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

博士論文作成を計画的に行うように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

国際開発援助の歴史を国際政治の文脈から捉え直し、国際開発と国際政治とがどのようにリンクしているのかについて考察し、そこに認められるダイナミズムについて理解を深めます。そのうえで、受講生は、国際開発が新興国の台頭という新たな状況の出現によって、今後どのように変化するかを考察できるようになります。新興国の中でも、とりわけ中国と韓国の開発協力に着目し、日本の援助経験と照らし合わせながら、東アジア3か国の開発協力のあり方について考えます。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：国際開発協力の現状を国際政治学をもとに分析理解し、そのダイナミズムを正しく理解することができる。

高い問題解決能力と表現力：身につけた知識を生かして、高度な議論を展開することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：アカデミックスキルを正しく理解し、修得した知識をもとに高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

Jin Sato and Yasutami Shimomura eds. (2013) The Rise of Asian Donors: Japan's impact on the evolution of emerging donors, London: Routledge.

Yasutami Shimomura and Hideo Ohashi eds. (2013) A Study of China's Foreign Aid: An Asian Perspective, Hampshire: Palgrave Macmillan.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Carol Lancaster, Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Policies, Univ of Chicago Press, 2006.

○Louis A. Picard, Robert Groelsema and Terry F. Buss eds., Foreign Aid and Foreign Policy, M E Sharpe Inc., 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 被援助国からドナーへ (1) 1950年代の日本
- 第3回 被援助国からドナーへ (2) 米国の思惑
- 第4回 被援助国からドナーへ (3) 冷戦構造と日本のODA
- 第5回 世界銀行プロジェクトの影響 (1) 技術移転
- 第6回 世界銀行プロジェクトの影響 (2) 農村開発
- 第7回 ドナーの援助が中国に与えた影響 (1) 中国の経済発展
- 第8回 ドナーの援助が中国に与えた影響 (2) 中国の外交政策
- 第9回 三位一体型の日本の援助 (1) 日本の援助方式
- 第10回 三位一体型の日本の援助 (2) 中国への影響
- 第11回 援助新興国韓国 (1) 日本の影響
- 第12回 援助新興国韓国 (2) 韓国の援助行政
- 第13回 インドの援助政策と日本の役割 (1) 日本の援助実績
- 第14回 インドの援助政策と日本の役割 (2) インドの援助政策
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・40% 課題・・・60%によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に該当箇所をしっかりと読んでから講義に臨んでください。事後学習としては参考文献リストを提示するので、その中からいくつかの文献を読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

英語文献を用いるので、相当の読解力を必要とします。また、専門分野である国際協力・開発援助についても知識を有していることが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

《高度な専門的知識・技能》

東アジア社会圏理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

地域社会における現実の諸課題を解決するための、東アジア社会圏に関する専門的知識の応用能力を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

リーダーシップを発揮するための学問的基盤を涵養する。

東アジア政治史研究に関する最近の研究書を輪読し、研究水準や方法に関する理解を深める。ややタイトかもしれないが、ついて来て欲しい。また、適宜、くずし字を用いた原文書の解読も行なっていく。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定する。小林道彦『政党内閣の崩壊と満州事変』（ミネルヴァ書房、6500円）などを予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『日本外交年表並主要文書』下巻、○『西園寺公と政局』、○『牧野伸顕日記』、見玉幸多編『くずし字解読辞典』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション。

第2回～14回 『政党内閣の崩壊と満州事変』の輪読。

15回 まとめ（到達点の確認）。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...50%、報告の内容...50%。シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに教員から提示された課題を完遂すること。授業終了後には講義中指摘された問題点を自分なりに考え、次週の講義に臨むこと。明治期の公文書の文章（例『日本外交文書』）にあらかじめ目を通しておいて下さい。受講者には、毎回レジユメによる報告をしてもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ市民政治論研究 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の市民文化について政治学的・歴史学的な理解を深めることを目的とする。アメリカ社会における市民理念を検討した文献を紹介するとともに、その著者のアプローチを使った分析手法を現代アメリカに適用した考察を行う。講義の前半では、アメリカ政治と政治史の基礎文献を紹介し、そのエッセンスを示す。後半では、前半に紹介したアプローチをもとに、現代社会における市民の位置づけを受講者の主体的参加を促しながら、ともに考えていく。

D Pに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講者の関心をもとに、ガイダンス時に決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】 【方法論】
- 第2回 自由主義社会論【自由主義】
- 第3回 トクヴィルのアメリカ【政治参加】
- 第4回 アメリカにおける社会問題への取り組み【社会政策】
- 第5回 アメリカにおける中産階級社会【中産階級】
- 第6回 アメリカ革命とは何か【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義の伝統【共和主義】
- 第8回 「民主主義」の多様性【民主主義】
- 第9回 奴隷制の遺産【奴隷制】
- 第10回 アメリカにおけるナショナリズム【ナショナリズム】
- 第11回 アメリカにおける保守主義【保守主義】
- 第12回 アメリカ市民文化を支えるもの【キリスト教】
- 第13回 政治における実験主義【プログマティズム】
- 第14回 現代外交と自由主義政治【冷戦】 【テロとの戦い】
- 第15回 授業の総括【市民政治】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて学習すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 市民文化

イギリス社会研究【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○						

授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。関連する英語文献を毎週1冊ずつ読み、内容を報告する。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

授業の際に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 文献の講読とそれに基づく議論
- 3回 文献の講読とそれに基づく議論
- 4回 文献の講読とそれに基づく議論
- 5回 文献の講読とそれに基づく議論
- 6回 文献の講読とそれに基づく議論
- 7回 文献の講読とそれに基づく議論
- 8回 文献の講読とそれに基づく議論
- 9回 文献の講読とそれに基づく議論
- 10回 文献の講読とそれに基づく議論
- 11回 文献の講読とそれに基づく議論
- 12回 文献の講読とそれに基づく議論
- 13回 文献の講読とそれに基づく議論
- 14回 文献の講読とそれに基づく議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、テキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。取り上げた文献の書評も調査のうえ、あらかじめ読んでおくこと。事後には、授業で得られた知見をもとに、テキストを再確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治研究【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	東アジア政治を理解するために必要な専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	東アジアの現実の諸課題を、身につけた専門的知識を用いて深く考察する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	東アジア地域への深遠な理解に基づき適切に対応する力とリーダーシップを修得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

東アジア政治研究

授業の概要 /Course Description

この授業では、主に中国の事例を通じて東アジア政治の現状を観察し、この地域の政治構造ならびに国家と社会の関係について理解することを目的とする。授業では、毎週、授業予計画のテーマに関する論文を1～2本読んで討論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

中国を中心とする東アジア政治について、専門性の高い文献を理解し、分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分の研究テーマと関連づけて考え、議論することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

講義の課題や議論において、先行研究を踏まえて自分の考えをまとめ、表現することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究課題や履修状況に応じて設定し、初回の授業で通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年(○)

国分良成編著『中国文化大革命再論』慶應義塾大学出版会、2003年(○)

下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

鈴木隆『中国共産党の支配と権力 - 党と新興の社会経済エリート』慶應義塾大学出版会、2012年

若林正文『台湾の政治 - 中華民国台湾化の戦後史』東京大学出版会、2008年(○)

Steve Tsang, A Modern History of Hong Kong, Hong Kong University Press 2004 (○)

東アジア政治研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 党と国家の関係I (中国・共産党)
- 第3回 党と国家の関係II (台湾・国民党)
- 第4回 中国の中央地方関係
- 第5回 香港、一国二制度
- 第6回 中台関係
- 第7回 台湾政治
- 第8回 歴史認識と統治の正統性
- 第9回 大躍進
- 第10回 文化大革命
- 第11回 改革開放 (経済政策と政治)
- 第12回 改革開放 (華南の状況)
- 第13回 経済大国化と安全保障
- 第14回 中国の社会主義
- 第15回 レポートの講評と授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標をどの程度達しているかに照らして、授業での発言・発表50%、課題提出物50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書を活用して、テキスト以外の専門書にも積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済研究 【昼】

担当者名 /Instructor	休講											
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester			1学期	授業形態 /Class Format			講義	クラス /Class	
対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	北九州と東アジア地域との経済関係について理解するために、大学院レベルの経済学及び経済事情の知識を習得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	東アジア地域が過去に直面した経済的な問題が何で、それに対してどのような対応が採られたかを理解する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	北九州地域と東アジア地域との将来の経済交流・経済関係がいかにあるべきかを考察して、政策提言できるようにする。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア経済研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際関係研究【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	東アジア伝統と近代の政治思想史をアジアから考える視点と文明論的な視点から捉えなおす。それにより東アジア社会圏に関する専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	身につけた学問的知識を土台に現実の地域社会に生かすとともに東アジア地域の現実を分析し、優れた課題解決能力を高める。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	身につけた学問的知識を持続的に増やし、北九州地域、東アジア地域ではもちろん、世界においてもリーダーシップをもって活躍できる能力を高める。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

東アジア国際関係研究

授業の概要 /Course Description

東アジア国際関係を、東アジア伝統地域秩序の基礎としての朝貢体制とその原理・規範から検討する。とりわけ明・清代の朝貢体制の多重性、儒教的原理・規範を考察する。

DPに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

朝貢体制の制度、理念、慣行に関する史料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり論文を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

指定せず、授業中に関連史料を取り上げて解説する。また先行研究や関連文献を紹介し、受講生の解説と報告を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の概要、目標

第2~14回 関連文献の報告、討論、補足説明

必要な場合、受講生の関心分野の報告の機会を設ける。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後の学習に基づいた報告と討論（70%）と期末のレポート（30%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

関連文献の予習と報告・討論の事前準備。事後、関連文献や参考文献の自主学習、論文修正を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

東アジア伝統地域秩序に強い関心をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

過去の伝統を知らざれば、現在を知らず、未来を展望することもできない。

東アジア国際関係研究 【昼】

キーワード /Keywords

東アジア政治史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 東アジア社会圏理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 地域社会における現実の諸課題を解決するための、東アジア社会圏に関する専門的知識の応用能力を修得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ リーダーシップを発揮するための学問的基盤を涵養する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア政治史研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

《高度な専門的知識・技能》

東アジア社会圏理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

地域社会における現実の諸課題を解決するための、東アジア社会圏に関する専門的知識の応用能力を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

リーダーシップを発揮するための学問的基盤を涵養する。

東アジア政治史研究に関する最近の研究書を輪読し、研究水準や方法に関する理解を深める。ややタイトかもしれないが、ついて来て欲しい。また、適宜、くずし字を用いた原文書の解説も行なっていく。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定する。小林道彦『政党内閣の崩壊と満州事変』（ミネルヴァ書房、6500円）などを予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『日本外交年表並主要文書』下巻、○『西園寺公と政局』、○『牧野伸顕日記』、見玉幸多編『くずし字解説辞典』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション。

第2回～14回 『政党内閣の崩壊と満州事変』の輪読。

15回 まとめ（到達点の確認）。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...50%、報告の内容...50%。シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに教員から提示された課題を完遂すること。授業終了後には講義中指摘された問題点を自分なりに考え、次週の講義に臨むこと。明治期の公文書の文章（例『日本外交文書』）にあらがじめ目を通しておいて下さい。受講者には、毎回レジュメによる報告をしてもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

東アジア政治史研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 東アジア地域理解に必要な基礎的、専門的知識を習得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 地域の現実的な諸課題に、習得した専門的知識が適用可能であることを発見し、課題解決に寄与できるようにする。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ 習得した専門的知識を生かして、実践的な提言を行い、指導力を発揮できるようにする。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

東南アジア政治研究

授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国の政治・社会（教育を含む）・エスニシティに関する文献をまず読み、その後に東南アジア諸国と日本との関係に関する文献を輪読して、報告と質疑を行う。それによって、【東南アジア諸国の政治や社会などの学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につけるとともに、東南アジア諸国と日本との関係の今後を自ら考え、行動できるような人材の育成】を目指す。

具体的なテーマは受講生の関心や知識によって決めるが、今年度は特に東南アジア諸国における日本占領に焦点を当てて、日本占領がどのように生徒・児童に教えられ、どのように国民の記憶となり、国民統合に位置づけられているのかを、シンガポールの学校で使用されている歴史教科書を受講生と読んで議論し、さらに、教育とナショナリズム、国民国家建設についても議論してみたい。

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門知識・技能】近現代東南アジアや国際関係の史資料を読むことができる。

【高い問題解決と表現力】自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】受け身の学習ではなく進んで調べたり、図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定するが、候補としては以下3つを考えている：

(1)From Colonies to Independent Nations: Selected Studies in Southeast Asian History
シンガポールの中等教育機関で使用されている歴史の最新の教科書。コピーして配布する。

(2)Michael Leifer, Asian Nationalism, Routledge, 2000.

(3)Kevin Blackburn and Kark Hack, War Memory and the Making of Modern Malaysia and Singapore, NUS Press, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1)について

○後藤乾一『近代日本と東南アジア：南進の「衝撃」と「遺産」』岩波書店、2010年

○倉沢愛子他編集委員『岩波講座 アジア・太平洋戦争』岩波書店、2005年

倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』早稲田大学出版会、1997年

(2)(3)について

○岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年

○清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2018年

東南アジア政治研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回～4回 From Colonies to Independent Nationsを3回に分けて輪読、議論する
- 第5回～8回 Asain Nationalism およびWar Memoryのなかから教員が指示した箇所を輪読、議論する
- 第9回～11回 日本占領期の教育について、教員が指示したテーマを報告する
- 第12回～13回 各受講生はこれまで議論したことの中から各自のテーマを見つけて報告し、議論する
- 第14回 全体討論
- 第15回 全体討論、課題レポートの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論の内容 70%、レポート30%
なお、出席状況が悪い場合は減点をすることがあるので注意して欲しい。
これらによって、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、事前に参考文献や資料を収集して熟読すること。事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、日本占領、国民国家建設、教育、ナショナリズム

東南アジア歴史文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	東南アジア歴史研究の現状と課題、論争点などにつき把握する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	東南アジア社会の特質を歴史的背景から考える能力を獲得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	地域社会で活動する際に、当該地域の歴史的背景の理解の重要性を認識する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

東南アジア歴史文化研究

授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国が抱える現代的課題を分析する上での歴史的・文化的アプローチについて考える。
あわせて、オリエンタリズム的認識の克服方法について学ぶ。
但し、受講者の研究内容を踏まえて変更する場合もある。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回～第14回：分担を決めた上で、各人に報告してもらう。
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容及び議論への参加度 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

その都度、指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ市民政治論研究 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 東アジアの政治発展に深い関わりを持ったアメリカ合衆国の市民政治の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ アメリカ合衆国の市民文化に関する専門知識を活用しながら、様々な地域の政治の課題を解決できる能力を修得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ 生活する地域からグローバル社会まで広がる権力関係と、そこでの自分の立ち位置を理解しながら、何を行動すべきか判断する能力と決断力を修得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

アメリカ市民政治論研究

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の市民文化について政治学的・歴史学的な理解を深めることを目的とする。アメリカ社会における市民理念を検討した文献を紹介するとともに、その著者のアプローチを使った分析手法を現代アメリカに適用した考察を行う。講義の前半では、アメリカ政治と政治史の基礎文献を紹介し、そのエッセンスを示す。後半では、前半に紹介したアプローチをもとに、現代社会における市民の位置づけを受講者の主体的参加を促しながら、ともに考えていく。

D Pに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。
《高い問題解決能力と表現力》自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講者の関心をもとに、ガイダンス時に決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】 【方法論】
- 第2回 自由主義社会論 【自由主義】
- 第3回 トクヴィルのアメリカ 【政治参加】
- 第4回 アメリカにおける社会問題への取り組み 【社会政策】
- 第5回 アメリカにおける中産階級社会 【中産階級】
- 第6回 アメリカ革命とは何か 【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義の伝統 【共和主義】
- 第8回 「民主主義」の多様性 【民主主義】
- 第9回 奴隷制の遺産 【奴隷制】
- 第10回 アメリカにおけるナショナリズム 【ナショナリズム】
- 第11回 アメリカにおける保守主義 【保守主義】
- 第12回 アメリカ市民文化を支えるもの 【キリスト教】
- 第13回 政治における実験主義 【プログマティズム】
- 第14回 現代外交と自由主義政治 【冷戦】 【テロとの戦い】
- 第15回 授業の総括 【市民政治】

アメリカ市民政治論研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて学習すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 市民文化

イギリス社会研究【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	東アジア社会圏と関連付けながら、イギリスに関する専門的知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	イギリス社会研究を通じて、現実にある課題の解決能力を身につける。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	イギリス社会研究を通じて、地域や世界で通用するリーダーシップを修得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

イギリス社会研究

授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。関連する英語文献を毎週1冊ずつ読み、内容を報告する。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

授業の際に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に指示する。

イギリス社会研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 文献の講読とそれに基づく議論
- 3回 文献の講読とそれに基づく議論
- 4回 文献の講読とそれに基づく議論
- 5回 文献の講読とそれに基づく議論
- 6回 文献の講読とそれに基づく議論
- 7回 文献の講読とそれに基づく議論
- 8回 文献の講読とそれに基づく議論
- 9回 文献の講読とそれに基づく議論
- 10回 文献の講読とそれに基づく議論
- 11回 文献の講読とそれに基づく議論
- 12回 文献の講読とそれに基づく議論
- 13回 文献の講読とそれに基づく議論
- 14回 文献の講読とそれに基づく議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、テキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。取り上げた文献の書評も調査のうえ、あらかじめ読んでおくこと。事後には、授業で得られた知見をもとに、テキストを再確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	東アジアを中心に広く国際協力に関する専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	国際社会が抱える諸課題を国際協力の観点から解決する能力を身につける。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	修得した知識を実務に生かすキャリア・パスを形成できる。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

国際協力研究

授業の概要 /Course Description

国際開発援助の歴史を国際政治の文脈から捉え直し、国際開発と国際政治とがどのようにリンクしているのかについて考察し、そこに認められるダイナミズムについて理解を深めます。そのうえで、受講生は、国際開発が新興国の台頭という新たな状況の出現によって、今後どのように変化するのかを考察できるようになります。新興国の中でも、とりわけ中国と韓国の開発協力に着目し、日本の援助経験と照らし合わせながら、東アジア3か国の開発協力のあり方について考えます。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：国際開発協力の現状を国際政治学をもとに分析理解し、そのダイナミズムを正しく理解することができる。

高い問題解決能力と表現力：身につけた知識を生かして、高度な議論を展開することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：アカデミックスキルを正しく理解し、修得した知識をもとに高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

Jin Sato and Yasutami Shimomura eds. (2013) The Rise of Asian Donors: Japan's impact on the evolution of emerging donors, London: Routledge.

Yasutami Shimomura and Hideo Ohashi eds. (2013) A Study of China's Foreign Aid: An Asian Perspective, Hampshire: Palgrave Macmillan.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Carol Lancaster, Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Policies, Univ of Chicago Press, 2006.

○Louis A. Picard, Robert Groelsema and Terry F. Buss eds., Foreign Aid and Foreign Policy, M E Sharpe Inc., 2007.

国際協力研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 被援助国からドナーへ（1）1950年代の日本
- 第3回 被援助国からドナーへ（2）米国の思惑
- 第4回 被援助国からドナーへ（3）冷戦構造と日本のODA
- 第5回 世界銀行プロジェクトの影響（1）技術移転
- 第6回 世界銀行プロジェクトの影響（2）農村開発
- 第7回 ドナーの援助が中国に与えた影響（1）中国の経済発展
- 第8回 ドナーの援助が中国に与えた影響（2）中国の外交政策
- 第9回 三位一体型の日本の援助（1）日本の援助方式
- 第10回 三位一体型の日本の援助（2）中国への影響
- 第11回 援助新興国韓国（1）日本の影響
- 第12回 援助新興国韓国（2）韓国の援助行政
- 第13回 インドの援助政策と日本の役割（1）日本の援助実績
- 第14回 インドの援助政策と日本の役割（2）インドの援助政策
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・40% 課題・・・60%によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に該当箇所をしっかりと読んでから講義に臨んでください。事後学習としては参考文献リストを提示するので、その中からいくつかの文献を読むようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

英語文献を用いるので、相当の読解力を必要とします。また、専門分野である国際協力・開発援助についても知識を有していることが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE711S		◎	△	△
科目名	東アジア政治研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、主に中国の事例を通じて東アジア政治の現状を観察し、この地域の政治構造ならびに国家と社会の関係について理解することを目的とする。授業では、毎週、授業予定書のテーマに関する論文を1~2本読んで討論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

中国を中心とする東アジア政治について、専門性の高い文献を理解し、分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分の研究テーマと関連づけて考え、議論することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

講義の課題や議論において、先行研究を踏まえて自分の考えをまとめ、表現することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究課題や履修状況に応じて設定し、初回の授業で通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年(○)
 国分良成編著『中国文化大革命再論』慶應義塾大学出版会、2003年(○)
 下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)
 鈴木隆『中国共産党の支配と権力 - 党と新興の社会経済エリート』慶應義塾大学出版会、2012年
 若林正文『台湾の政治 - 中華民国台湾化の戦後史』東京大学出版会、2008年(○)
 Steve Tsang, A Modern History of Hong Kong, Hong Kong University Press 2004 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 党と国家の関係I (中国・共産党)
- 第3回 党と国家の関係II (台湾・国民党)
- 第4回 中国の中央地方関係
- 第5回 香港、一国二制度
- 第6回 中台関係
- 第7回 台湾政治
- 第8回 歴史認識と統治の正統性
- 第9回 大躍進
- 第10回 文化大革命
- 第11回 改革開放 (経済政策と政治)
- 第12回 改革開放 (華南の状況)
- 第13回 経済大国化と安全保障
- 第14回 中国の社会主義
- 第15回 レポートの講評と授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

シラバスの到達目標をどの程度達しているかに照らして、授業での発言・発表50%、課題提出物50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書を活用して、テキスト以外の専門書にも積極的に取り組むこと。

東アジア政治研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済研究 【昼】

担当者名 /Instructor	休講												
履修年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester		1学期	授業形態 /Class Format		講義	クラス /Class				
対象入学年度 /Year of School Entrance		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
													○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN750S	◎	△	△
科目名	東アジア経済研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際関係研究【昼】

担当者名 /Instructor 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
IRL710S	◎	△	△
科目名	東アジア国際関係研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア国際関係を、東アジア伝統地域秩序の基礎としての朝貢体制とその原理・規範から検討する。とりわけ明・清代の朝貢体制の多重性、儒教的原理・規範を考察する。

DPに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

朝貢体制の制度、理念、慣行に関する史料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり論文を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

指定せず、授業中に関連史料を取り上げて解説する。また先行研究や関連文献を紹介し、受講生の解説と報告を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業の概要、目標

第2~14回 関連文献の報告、討論、補足説明

必要な場合、受講生の関心分野の報告の機会を設ける。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後の学習に基づいた報告と討論 (70%) と期末のレポート (30%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

関連文献の予習と報告・討論の事前準備。事後、関連文献や参考文献の自主学習、論文修正を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

東アジア伝統地域秩序に強い関心をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

過去の伝統を知らざれば、現在を知らず、未来を展望することもできない。

キーワード /Keywords

東アジア政治史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
HIS721S	◎	△	△
科目名	東アジア政治史研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

《高度な専門的知識・技能》

東アジア社会圏理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

地域社会における現実の諸課題を解決するための、東アジア社会圏に関する専門的知識の応用能力を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

リーダーシップを発揮するための学問的基盤を涵養する。

東アジア政治史研究に関する最近の研究書を輪読し、研究水準や方法に関する理解を深める。ややタイトかもしれないが、ついて来て欲しい。また、適宜、くずし字を用いた原文書の解説も行なっていく。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定する。小林道彦『政党内閣の崩壊と満州事変』（ミネルヴァ書房、6500円）などを予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『日本外交年表並主要文書』下巻、○『西園寺公と政局』、○『牧野伸顕日記』、見玉幸多編『くずし字解説辞典』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション。

第2回～14回 『政党内閣の崩壊と満州事変』の輪読。

15回 まとめ（到達点の確認）。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...50%、報告の内容...50%。シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに教員から提示された課題を完遂すること。授業終了後には講義中指摘された問題点を自分なりに考え、次週の講義に臨むこと。明治期の公文書の文章（例『日本外交文書』）にあらかじめ目を通しておいて下さい。受講者には、毎回レジュメによる報告をしてもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE712S		◎	△	△
科目名	東南アジア政治研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国の政治・社会（教育を含む）・エスニシティに関する文献をまず読み、その後に東南アジア諸国と日本との関係に関する文献を輪読して、報告と質疑を行う。それによって、【東南アジア諸国の政治や社会などの学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につけるとともに、東南アジア諸国と日本との関係の今後を自ら考え、行動できるような人材の育成】を目指す。

具体的なテーマは受講生の関心や知識によって決めるが、今年度は特に東南アジア諸国における日本占領に焦点を当てて、日本占領がどのように生徒・児童に教えられ、どのように国民の記憶となり、国民統合に位置づけられているのかを、シンガポールの学校で使用されている歴史教科書を受講生と読んで議論し、さらに、教育とナショナリズム、国民国家建設についても議論してみたい。

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門知識・技能】近現代東南アジアや国際関係の史資料を読むことができる。

【高い問題解決と表現力】自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】受け身の学習ではなく進んで調べたり、図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定するが、候補としては以下3つを考えている：

- (1)From Colonies to Independent Nations: Selected Studies in Southeast Asian History
シンガポールの中高等教育機関で使用されている歴史の最新の教科書。コピーして配布する。
- (2)Michael Leifer, Asian Nationalism, Routledge, 2000.
- (3)Kevin Blackburn and Kark Hack, War Memory and the Making of Modern Malaysia and Singapore, NUS Press, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1)について

- 後藤乾一『近代日本と東南アジア：南進の「衝撃」と「遺産」』岩波書店、2010年
- 倉沢愛子他編集委員『岩波講座 アジア・太平洋戦争』岩波書店、2005年
- 倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』早稲田大学出版会、1997年

(2)(3)について

- 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年
- 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2018年

東南アジア政治研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回～4回 From Colonies to Independent Nationsを3回に分けて輪読、議論する
- 第5回～8回 Asain Nationalism およびWar Memoryのなかから教員が指示した箇所を輪読、議論する
- 第9回～11回 日本占領期の教育について、教員が指示したテーマを報告する
- 第12回～13回 各受講生はこれまで議論したことの中から各自のテーマを見つけて報告し、議論する
- 第14回 全体討論
- 第15回 全体討論、課題レポートの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

報告や議論の内容 70%、レポート30%
なお、出席状況が悪い場合は減点をすることがあるので注意して欲しい。
これらによって、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、事前に参考文献や資料を収集して熟読すること。事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、日本占領、国民国家建設、教育、ナショナリズム

東南アジア歴史文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE713S	◎	△	△
科目名	東南アジア歴史文化研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国が抱える現代的課題を分析する上での歴史的・文化的アプローチについて考える。
あわせて、オリエンタリズム的認識の克服方法について学ぶ。
但し、受講者の研究内容を踏まえて変更する場合もある。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回～第14回：分担を決めた上で、各人に報告してもらう。
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容及び議論への参加度 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

その都度、指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ市民政治論研究 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE720S	◎	△	△
科目名	アメリカ市民政治論研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の市民文化について政治学的・歴史学的な理解を深めることを目的とする。アメリカ社会における市民理念を検討した文献を紹介するとともに、その著者のアプローチを使った分析手法を現代アメリカに適用した考察を行う。講義の前半では、アメリカ政治と政治史の基礎文献を紹介し、そのエッセンスを示す。後半では、前半で紹介したアプローチをもとに、現代社会における市民の位置づけを受講者の主体的参加を促しながら、ともに考えていく。

DPに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講者の関心をもとに、ガイダンス時に決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】 【方法論】
- 第2回 自由主義社会論【自由主義】
- 第3回 トクヴィルのアメリカ【政治参加】
- 第4回 アメリカにおける社会問題への取り組み【社会政策】
- 第5回 アメリカにおける中産階級社会【中産階級】
- 第6回 アメリカ革命とは何か【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義の伝統【共和主義】
- 第8回 「民主主義」の多様性【民主主義】
- 第9回 奴隷制の遺産【奴隷制】
- 第10回 アメリカにおけるナショナリズム【ナショナリズム】
- 第11回 アメリカにおける保守主義【保守主義】
- 第12回 アメリカ市民文化を支えるもの【キリスト教】
- 第13回 政治における実験主義【プログマティズム】
- 第14回 現代外交と自由主義政治【冷戦】 【テロとの戦い】
- 第15回 授業の総括【市民政治】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

アメリカ市民政治論研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて学習すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 市民文化

イギリス社会研究【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ARE730S	◎	△	△
科目名	イギリス社会研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。関連する英語文献を毎週1冊ずつ読み、内容を報告する。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

授業の際に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 文献の講読とそれに基づく議論
- 3回 文献の講読とそれに基づく議論
- 4回 文献の講読とそれに基づく議論
- 5回 文献の講読とそれに基づく議論
- 6回 文献の講読とそれに基づく議論
- 7回 文献の講読とそれに基づく議論
- 8回 文献の講読とそれに基づく議論
- 9回 文献の講読とそれに基づく議論
- 10回 文献の講読とそれに基づく議論
- 11回 文献の講読とそれに基づく議論
- 12回 文献の講読とそれに基づく議論
- 13回 文献の講読とそれに基づく議論
- 14回 文献の講読とそれに基づく議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

イギリス社会研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には、テキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。取り上げた文献の書評も調査のうえ、あらかじめ読んでおくこと。事後には、授業で得られた知見をもとに、テキストを再確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
IRL711S	◎	△	△
科目名	国際協力研究		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※地域社会システム専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

国際開発援助の歴史を国際政治の文脈から捉え直し、国際開発と国際政治とがどのようにリンクしているのかについて考察し、そこに認められるダイナミズムについて理解を深めます。そのうえで、受講生は、国際開発が新興国の台頭という新たな状況の出現によって、今後どのように変化するかを考察できるようになります。新興国の中でも、とりわけ中国と韓国の開発協力で着目し、日本の援助経験と照らし合わせながら、東アジア3か国の開発協力のあり方について考えます。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：国際開発協力の現状を国際政治学をもとに分析理解し、そのダイナミズムを正しく理解することができる。

高い問題解決能力と表現力：身につけた知識を生かして、高度な議論を展開することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：アカデミックスキルを正しく理解し、修得した知識をもとに高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

Jin Sato and Yasutami Shimomura eds. (2013) The Rise of Asian Donors: Japan's impact on the evolution of emerging donors, London: Routledge.

Yasutami Shimomura and Hideo Ohashi eds. (2013) A Study of China's Foreign Aid: An Asian Perspective, Hampshire: Palgrave Macmillan.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Carol Lancaster, Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Policies, Univ of Chicago Press, 2006.

○Louis A. Picard, Robert Groelsema and Terry F. Buss eds., Foreign Aid and Foreign Policy, M E Sharpe Inc., 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 被援助国からドナーへ (1) 1950年代の日本
- 第3回 被援助国からドナーへ (2) 米国の思惑
- 第4回 被援助国からドナーへ (3) 冷戦構造と日本のODA
- 第5回 世界銀行プロジェクトの影響 (1) 技術移転
- 第6回 世界銀行プロジェクトの影響 (2) 農村開発
- 第7回 ドナーの援助が中国に与えた影響 (1) 中国の経済発展
- 第8回 ドナーの援助が中国に与えた影響 (2) 中国の外交政策
- 第9回 三位一体型の日本の援助 (1) 日本の援助方式
- 第10回 三位一体型の日本の援助 (2) 中国への影響
- 第11回 援助新興国韓国 (1) 日本の影響
- 第12回 援助新興国韓国 (2) 韓国の援助行政
- 第13回 インドの援助政策と日本の役割 (1) 日本の援助実績
- 第14回 インドの援助政策と日本の役割 (2) インドの援助政策
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・40% 課題・・・60%によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に該当箇所をしっかりと読んでから講義に臨んでください。事後学習としては参考文献リストを提示するので、その中からいくつかの文献を読むようにしてください。

国際協力研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

英語文献を用いるので、相当の読解力を必要とします。また、専門分野である国際協力・開発援助についても知識を有していることが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords